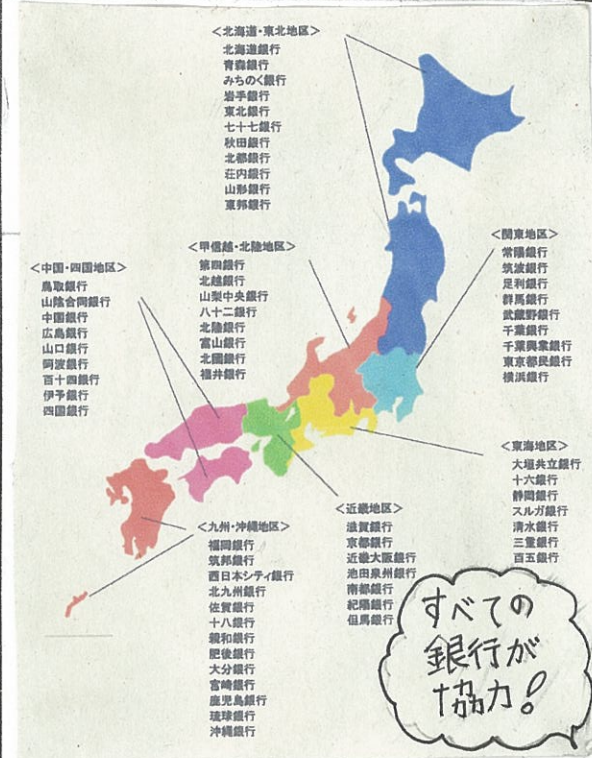


銀行が未来の森を救う!?



地方銀行有志の会は平成二十年に発足された。全国六十四の地方銀行が参加している。会の目的は、美しい日本の風景を環境を守り、次の世代を引きつぐことである。各銀行と地域が協力し、本を植えたり、森林の手入れをしている。

日本の森林を守る! 地方銀行有志の会

銀行はお金を預けたり借ったりするところ... と思っているだろう。しかし、それだけではなかった。銀行が森林を守る活動をしているのだ。銀行が私たちの環境を守るためにどのような取り組みをしているのか調べてみた。

森林新聞

発行者 泉北小学校
五年二組 鈴木南々重
発行日 平成28年1月7日



参加者全員による記念写真

東邦銀行では福島県や、各市町村と協力して、とうほうの森づくりにとりくんでいます。森林を手入れし、たくさんの木を植える活動だ。平成二十二年から始まり、今まで九回、合計約千二百本の木が植えられた。いわき市では、昨年10月にときわ台で約百本の木を植えたそう。私たちの中でも、美しいとうほうの森林が育っている。

私たちの身近な銀行

東邦銀行は、社会貢献、献室、石井英幸さんにインタビューしました。

Q どういうふうな森林づくりを始めていたのですか?

A 東邦銀行は福島県内にたくさん支店があり、地域の人にお世話になっています。銀行も地域の役に立ちたくて、未来の森林を守ることにしました。

Q 森林にどんな木を植えていますか?

A 県内でも地域により気温や積雪などがちがいます。森林の専門家に相談し、その自然に一番合う木を植えます。また、モミジやカエデなど紅葉の時期などに木をおとすために、木の目を染めさせてくれる木も植えています。

Q この新聞を読んで、人に思ってもらいたいのは、今のこの世代のことも考えるということですか?

A この新聞を作ったのは、未来を守るために、ぜひ見に来てほしいです。

Q 今後の活動をお願いします。

A これからも、毎年県内のいろいろなところでとうほうの森林づくりを行います。今年の秋には、またいわき市で木を植えます。ぜひ見に来てほしいです。

